

Economic Indicators

発表日: 2022年8月5日(金)

景気動向指数(2022年6月)

～中国ロックダウン解除で急反発も、先行きは懸念材料山積み～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

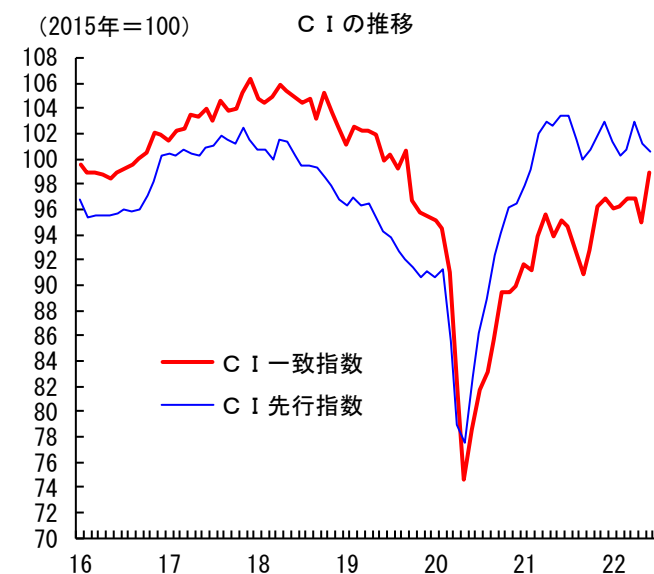
(TEL: 050-5474-7490)

中国ロックダウン解除で急反発だが、先行き不透明感は強い

内閣府から公表された2022年6月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+4.1ポイントとなった。5月には中国におけるロックダウンの影響から前月差▲1.9ポイントと落ち込んでいたが、6月にはそうした要因が解消されたことから急反発となった。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数など、生産・出荷関連が軒並み大きく伸び、押し上げ要因となっている。

この結果、内閣府によるC I一致指数の基調判断は5ヶ月連続で「改善」となった。6月の数字が0.1ポイントでも低下していれば基調判断は「足踏み」へ下方修正されるところだったが、実際には急上昇となり、こうした事態は回避された。3ヶ月移動平均前月差も0.73とはっきりとしたプラスに転じており、「足踏み」への下方修正には多少距離ができた。目先、「改善」判断が続きそうだ。

もっとも、今月の急上昇については、5月に大きく落ち込んでいたところからの反動の面が大きい。新型コロナウイルスの感染急拡大、物価上昇による実質購買力の抑制、海外景気の減速等、先行きの景気については懸念材料が多く、とても楽観できる状況ではない。特に海外景気については要警戒であり、急ピッチで進められている金融引き締めが悪影響が今後本格化することを考えると、世界経済の減速感が今後一段と強まることは避けられないだろう。世界経済がリセッションの瀬戸際に立たされるなか、日本が無傷でいられるはずもない。日本の輸出にも相応の悪影響が及ぶとみられ、景気は下押しされる可能性が高い。世界経済の下振れ幅如何では、日本が景気後退に陥る可能性も否定できないだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

